

## ケアセンターけやき

症 例 概 要    利用者氏名：M様    (72歳    女性    要介護3)

利用期間：平成27年3月～現在

通所リハビリテーション

経過：平成23年頃より脊髄小脳変性症を発症される。日常生活は概ね自立していましたが、同年10月頃より症状が悪化、転倒の危険性が高い状態となりました。そこで介護保険を利用、入浴・トイレ掃除等の支援と、住宅改修・筋力維持のためリハビリを行い、住み慣れた家での生活を続けるため、通所リハビリテーションの利用開始となりました。

### 内 容

---

利用開始当初は日常生活に対する不安感が著明で、立位姿勢でも後方に倒れてしまう要素と血圧が高く積極的な運動は行えない状況でした。また、体調不良から休むこともしばしばありました。

そのような状態が長く続く中、地道に一步ずつM様の不安があることを解消して行く中で、身の回りのことは自分でできる様になり、少しずつ自信をつけてもらえるように支援を続けてきました。

支援を続けていくうちに、M様からは「富山に旅行に行きたい!」という希望(目標)が聞ける様になりました。目標を持ったことで生活に張りが出て、本格的に旅行に向けてのプログラム(生活行為向上マネジメント)を開始しました。まずは、担当の職員が付添い自宅の最寄りの駅から私鉄で池袋まで行くことから始めました。池袋まで行くことができると、次はJR山手線で大塚駅まで、その次は上野駅までと少しずつ距離を伸ばしてリハビリを実施していきました。また、危険なところ、苦手なところは担当職員が付き添いながら丁寧に評価し、私鉄とJR双方の駅員にも協力してもらいました。また、M様は緊張しやすく言葉がうまく出ないこともあったので、M様と担当職員で不安な場面を確認し、4種類のヘルプカードを作りヘルプカードを使う場面、タイミングなど練習を重ねてきました。旅行の日が近づくにつれ、「本当に行けるかしら?」と不安な様子を見せていましたので、通所リハビリの職員みんなで「大丈夫ですよ!楽しんできて下さい!」と励ましました。

そして5月7日、お一人で富山まで旅行されました。リハビリで行ってきた通りの行程でヘルプカードも練習通り使用して旅行を楽しめたようです。「念願だった富山に旅行して無事にご自宅に帰りました!」「とてもじゃないけど、行けると思っていなかったから本当に嬉しい!けやきさんのおかげで夢が叶いました!!」という喜びいっぱい声を頂きました。嬉しそうにご報告されるM様の声を通所リハビリ職員全員で共有し、感動しました。ご利用者に輝きの一日を提供すると同時に通所リハビリ職員全員がよい仕事に携わることができたとやりがいを感じられた事例です。